

No.78 見通しが持てれば満足感がある

義高 互

勉強がわからなければ、授業が苦しいのか？
 授業は、学力や子どもの力をつけるために行われています。授業への意欲にあふれる子供もいれば、意欲をなくしてしまった子供もいます。授業への意欲は習熟度に比例するといわれます。つまり習熟度が高ければ授業に意欲が出て、低ければ授業への意欲が低くなります。そうすると習熟度が上がらない子供は常に授業がつまらない、という事になります。そのような部分はあると思います。でもそれがすべてでしょうか。

課題がある子供たちと通級で学習してきた中で、なかなか習熟度が上がらないことを感じました。そうすると常に授業がつまらない、という事になります。それだけでしょうか？習熟度つまり勉強ができる・わかるという事だけが満足度が上がる要素ではないと思います。グループ学習などで友達と十分議論ができれば、満足度が上がります。しかしこれは情緒に課題がある子どもにはなかなかできない事です。勉強がわかる、または友達と十分議論ができるという要素はLD、ADHDの通級学級に通う子供たちには達成が難しいものです。では他に授業に満足する要素がないのか、日々子どもに聞き取りを行って探っていました。その中で出てきたのが、授業での見通し、流れがわかる、という要素でした。授業での見通しや流れがわかると、ペーパーテストなどで問題の解答ができなくても満足度が高い、という事がわかってきました。

そのために必要なことは、勉強の解答が難しい習熟度が低い子供でも、授業の流れがわかる環境を整えることです。教師の準備や工夫に充分時間をかけ、授業だけでなく、一日の活動の流れを単純化して、授業に集中できる環境を整

授業の意欲や満足感を高めるには

ケース名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A 授業準備	1	1	2	1	3	2	2	1	2	4	1	2
B 友達との交流	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1
C 学習意欲	1	1	2	1	1	1	2	1	1	2	1	1
D 授業の流れ	1	1	2	1	2	1	2	1	1	3	1	1

2019年通級生数・併修生数 中1中2 計7名 2019年10月2日から12月10日まで
 38ケースのうちLDが合計3以下のケースを15ケース抜粋

友達と上手く相談できなくても・・・
 勉強がわからなくても・・・

**授業の流れが見通せれば
 意欲や満足感が高い**



えれば、それは可能だと考えられます。逆に授業以外の活動を増加させるなど、授業に集中できない環境にしてしまうと、資料のように授業への意欲と集中力が低下することがわかっています。

学校での一日の流れを単純化して、変更をなくし、教師が授業に注力できる環境を整えることが前提となります。そして工夫の中で授業の流れが理解できることができれば、友達とうまく交流できなかったり、学習の完全な理解が難しい子どもでも授業への満足度が上がる。それが期待できる、と思われます。

END